河口堰 開門調査に意欲

シジミ漁をPT視察

長良川河口堰（かこうぜき）の開門調査に向けた愛知県のプロジェクトチーム（PT）の下部組織にあたる専門委員会の共同座長2人が9日、河口堰周辺でのシジミ漁を視察し、地元の漁師や住民と意見交換した。

PTの座長も務める青山学院大学の小島敏郎教授は「生き物と環境の関係は非常にフレキシブルだと感じた。今後の開門調査で、シジミなども戻ってくる可能性がある」と意欲を見せた。また、京都大学の今本博健名誉教授は「河川工学の立場で言えば、河口堰は造るべきではなかった」と話した。

この日は、河口堰ができた直後から河口堰周辺のシジミの調査を続けてきた桑名市の市民団体「しじみプロジェクト・桑名」と地元漁師らが、河口堰の上下流でシジミ漁をした。ほとんどシジミが採れなくなっていた下流の1カ所で、多くのシジミが採れたことを受け、同団体の代表世話人の伊藤研司桑名市議は「台風12号や15号でゲートを全開していた影響かもしれない」と話した。

（姫野直行）

長良川河口堰の下流で採れたシジミを見る小島敏郎氏（右）と今本博健氏